岡山市基本政策審議会における委員発言要旨（環境分野）

資料２－２

No.	発言のポイント	要旨
1	ESDの成果を含めて環境施策のアピールを	ESDの国際会議の成果も含めて、岡山市の環境対策の進め方をもっと積極的にPRするべきだ。また、ごみの分別や量の問題など、市民に対して行政として言うべきことは言う必要がある。
2	ゴミ分別の厳格化を	岡山市はごみの分別化が甘い。それだけ処理コストがかかっているわけで、もっと厳格化が必要だ。政令指定都市で一番進んだ都市にすればいい。それで浮いた予算をLRT化や公共交通に回すことを検討してほしい。
3	ごみの減少・資源化を	岡山市とほかの都市を比べた場合、大都市ほどごみの量が少なくて資源化率が高い。有料化を進めるとか、分別を細かくすることが必要なのか、そのあたりの事情を学ぶべきではないか。
4	高齢化社会への対応を	高齢化社会になると、ごみの分別を厳しくするのが難しい。いい加減にしていいわけではないが、あまり厳しくすると、これはどっちだ、もういいや、まとめて放り込んでおけということになり、倫理が崩れていく。そのあたりの兼ね合いも考えていかないといけない。
5	天ぷら油の燃料活用を	町内会で天ぷら油の回収し、それを精製してディーゼルエンジンの燃料にする活動を行っている。二酸化炭素をまったく排出しないうえ、燃焼温度が低い。地球環境にとっていいことばかりなので、さらに啓発を進めていきたい。
6	子どもの環境教育を	環境教育は幼児教育・義務教育の時から始めるべきだ。人間も自然の一部であるというくらいの謙虚な気持ちを育てていく。さらには親に対する教育、そんなごみの捨て方をしてはだめだと子どもが親に対して言うような教育が必要だ。
7	環境コーディネーターの養成	ごみは生活の負の部分で、都市の文化を象徴するものだ。岡山市はごみ処理が甘い。紙ごみはごみなのか資源なのか、その分別を重点化してもいい。公募制の臨時環境コーディネーターを養成し、子どもへのごみ問題の教育、市民の提案の吸い上げなどを担当してもらう。そういった取り組みをしてはどうか。
8	水資源の保全の啓蒙を	岡山市には西川をはじめ、倉敷川、笹ケ瀬川、その外側に旭川と吉井川が流れている。水を大切にする、きれいな水を保全していくことが重要だ。レジャーや教育を通じて、子どもが川の水に触れて、その大切さを学ぶことが、環境を保全していく上で必要だ。
9	交通体系の転換と都市環境の改善を	環境施策では、地球温暖化防止行動計画の見直しと低炭素社会の実現を重視すべきだ。自家用車の利用抑制と、公共交通・自動車・歩行者優先の交通体系への転換が求められる。また都心部を中心とする水と緑のネットワークづくりを進め、都市環境の改善を図ることが重要だ。そして、ESD岡山モデルによる公民館や学校を拠点とする環境保全活動を推進していくべきだ。
10	他都市を上回る環境水準を	二酸化炭素排出量、ごみ排出量、汚水処理普及率などについて他都市を上回る水準を目指した取り組みをしていく。当社では会社を移転した時に自然との共生を唱えて、周囲に木を植えた。それが今では生長して緑が多くなった。市民一人ひとりの努力や自覚が岡山市全体の状況にかかわってくる。それを促すような施策を取ってもらいたい。
11	耕作放棄地の転用抑止を	農村の耕作放棄地が資材置き場や倉庫に転用され、就農支援をしようとしても農地の確保を阻害することになっているのではないか。こうしたことも環境に大きな影響を与える。高齢化が進めば、転用が増える可能性があるため、何らかの抑止策を検討してもらいたい。

岡山市基本政策審議会における委員発言要旨（環境分野）

資料２－２

No.	発言のポイント	要旨
12	環境学習と交流の場を	「安全・クリーン・健康岡山」を打ち出し、推進月間を設ける。子どもや家族が街を歩いて環境問題を学びつつ、世代間の交流を育む。そうした活動を定期的に行うことで、市民の意識や行動の醸成を図ればいいのではないか。また、歩くことは交通問題の意識付けにもつながり、ウオーキングコースの整備などを市民とともに考えて企画することが重要だ。
13	自然の保護と利用を	岡山市は非常に自然が豊かで、身近に貴重な野生生物もいる。産業との兼ね合いで、この自然をどう残していくか、それを子どもたちにどう触れさせていくか。ESDを推進している点からも、自然の保護や利用をしっかりと考えていくことが必要だ。
14	ホタルの飛び交う都市を	岡山市には旭川、吉井川が流れ、用水路が市中に巡らされている。そうした用水路の保全も必要だ。以前の総合計画でホタルの飛び交う拠点都市という案があった。当時はひんしゅくを買ったが、今は自然と共生する岡山市という意味で、いいのではないか。
15	環境を生かした連携を	岡山市は公民館や学校がESD活動に取り組んでいるほか、環境教育施設やNPO法人がさまざまな取り組みをしているが、それぞれが連携できることが重要だ。山、川、海のある恵まれた環境を生かして、体験や交流をする、教育をする、観光の一端として利用するということを考えていく必要がある。
16	具体的な数値目標を	地球温暖化防止の具体的な数値目標が定まりつつある中で、岡山市としての具体的な目標を定める時期だ。地球温暖化の対策を進めることが都市の発展にもつながる。ESD岡山モデルとして、公民館・学校と地域が連携した環境保全活動を真剣に考えるべきだ。
17	二酸化炭素と食糧廃棄の削減を	地球環境で見ると二酸化炭素の排出を削減しなければならない。岡山市の周辺部では生活に自家用車が不可欠になる。車の規制は難しいが、公共交通機関の利用を促進し、排出量を削減することが重要だ。ごみ問題では食糧廃棄物の削減も必要だ。
18	市民へのPRを	家庭の二酸化炭素排出量が増えているとのことだが、対策について知らない市民が多いのではないか。もっとPRしていくべきだ。子どもや大人に対する教育も重要だ。社会でも電気自動車やハイブリッドカーの利用促進、公共交通分担率の増加などに取り組む必要がある。
19	カーボンオフセットの取り組みを	二酸化炭素を出すところをどこかで相殺する、カーボンオフセットの仕組みをつくる。車で来て買い物をするごとに1円を貯めて、店舗が市にLEDの街灯を寄贈する。あるいは他市の二酸化炭素を吸収するためのクレジットを販売し、森林を整備していく。そういうシステムがあれば、県北の森林資源を県南の都市でサポートするような循環型の仕組みができるのではないか。